

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 7 月 2 日 (2020.7.2)

【公表番号】特表 2018-534285 (P2018-534285A)

【公表日】平成 30 年 11 月 22 日 (2018.11.22)

【年通号数】公開・登録公報 2018-045

【出願番号】特願 2018-519414 (P2018-519414)

【国際特許分類】

C 0 7 C 211/54 (2006.01)

C 0 7 D 207/452 (2006.01)

C 0 8 F 16/32 (2006.01)

C 0 8 F 222/40 (2006.01)

H 0 1 L 51/50 (2006.01)

H 0 5 B 33/10 (2006.01)

H 0 1 L 51/05 (2006.01)

H 0 1 L 51/30 (2006.01)

H 0 1 L 29/786 (2006.01)

C 0 7 C 209/68 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 211/54

C 0 7 D 207/452 C S P

C 0 8 F 16/32

C 0 8 F 222/40

H 0 5 B 33/14 B

H 0 5 B 33/10

H 0 5 B 33/22 D

H 0 5 B 33/22 B

H 0 1 L 29/28 1 0 0 A

H 0 1 L 29/28 2 5 0 G

H 0 1 L 29/78 6 1 8 B

C 0 7 C 209/68

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 2 年 5 月 21 日 (2020.5.21)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

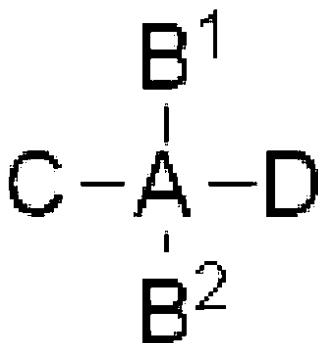
【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

次の式の化合物であって、

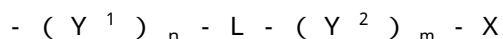
【化 1】



式中、

A は、フェニル基を表し、

B¹ 及び B² は、次の構造の独立して選択された側鎖であり、



式中、

各出現時の Y¹ 及び Y² は独立して、O、CO₂-、及び CH₂O から選択され、

各出現時の m 及び n は 1 であり、

各出現時の L は、C₂ ~ C₁₄ 直鎖状アルキル基であり、

各出現時の X は、独立して選択された架橋性基であり、

ここで、前記架橋性基は、エチレン、ジエン、チオールおよびオキセタン基の群から選択され、

C は、次の構造 -(Z¹)_p-M-(Z²)_q-E の側鎖であり、

式中、

Z¹ 及び Z² は独立して、O、CO₂-、及び CH₂O から選択され、

p 及び q は 1 であり、

M は、C₁ ~ C₁₄ 直鎖状アルキル基であり、

E は、電荷輸送基を含み、

D は、次の構造 -(W¹)_r-N-(W²)_s-F の側鎖であり、

式中、

W¹ 及び W² は独立して、O、CO₂-、及び CH₂O から選択され、

r 及び s は 1 であり、

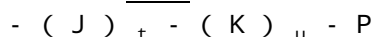
N は、C₁ ~ C₁₄ 直鎖状アルキル基であり、

F は、電荷輸送基を含み、

式中、E および F は、それぞれ、トリフェニルアミンまたはスピロピフルオレンアリアルアミン、3,6-カルバゾール、2,7-カルバゾールまたは 1,3,6,8-カルバゾールを含む正孔輸送基であり、

前記電荷輸送基 E は、スピロピフルオレンアリアルアミンのモチーフの一部を形成するフルオレン基以外のフルオレン基を含まず、

前記基 E 及び前記基 F が、次の一般式により表される正孔輸送基であり、



式中、J は、フェニル基、ベンジル基、ビフェニル基、2,2'-ビチオフエン基、縮合チオフエン基、またはチオフエンであり、t は、0 または 1 であり、K は、トリフェニルアミンもしくはスピロピフルオレンアリアルアミン、共有結合を介して鎖の隣接部位に結合した 3,6-カルバゾール、2,7-カルバゾールもしくは 1,3,6,8-カルバゾール、フェニル基、縮合チオフエン基、またはチオフエンから選択される正孔輸送モチーフであり、u は、1 ~ 10 の整数であり、P は、水素、C₁ ~ C₈ 直鎖状もしくは分枝状アルキル、フェニル、C₁ ~ C₈ 直鎖状もしくは分枝状アルキル置換フェニル、または C₁ ~ C₈ 直鎖状もしくは分枝状アルキル置換ビフェニルから選択される連鎖停止基であ

る、化合物。

【請求項 2】

E 及び F が同一である、請求項 1 に記載の化合物。

【請求項 3】

放射線に請求項 1 または 2 に記載の化合物を曝露することにより形成される網状ポリマーであって、任意に、前記放射線が紫外線である、網状ポリマー。

【請求項 4】

請求項 1 または 2 に記載の化合物または請求項 3 に記載の網状ポリマーを含むデバイス。

【請求項 5】

OLED デバイス、OPV デバイス、または OFET デバイスである、請求項 4 に記載のデバイス。

【請求項 6】

請求項 4 または請求項 5 に記載のデバイスを作製するための方法であって、

i) 好適な有機溶剤中に請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の化合物を溶解するステップと、

ii) 結果として生じた溶液を基板上に堆積させるステップと、

iii) 前記溶剤を蒸発下で、任意に減圧下で除去して、膜を形成するステップと、

iv) 結果として生じた膜を放射線に曝露するステップであって、任意に、前記放射線が紫外線である、曝露するステップと、を含む、方法。